

個人的見解

雑誌が雑誌ではない場合。DOAJ をつぶさに見ると。(Sally Morris)

Morris, Sally. When is a journal not a journal? A closer look at the DOAJ. (Personal View)

Learned Publishing, Vol.19, No.1, Jan. 2006, 3p. [preprint]

<<http://www.alpsp.org/2005pdfs/DOAJpreprint.pdf>>

ある評論家は、Directory of Open Access Journals (DOAJ) (<http://www.doaj.org>) に収録されている雑誌が全てオープンアクセスではないと示唆し、他の評論家は、事実すべてが現在出版されていなく、もっといえばアクセス可能ではないという意見を表明している。それらのほとんどが、ごく少数[の論文]しか出版していないと断言している。それに応えて、これは(そして引用と財政上の持続性の欠如は)雑誌が単に若いからだと反論する。

これらのコメントが本当に正しいのかどうかを確認するために、DOAJ に収録されている雑誌についていくつかの簡単な分析を行うことが役に立つと考えた。2005年の早い時期に、それゆえ私は21人のボランティアにDOAJに収録された1,443の雑誌¹⁾のある側面の分析について協力を求めた。各雑誌について、ボランティアに(a)利用できる最初の論文の年(b)創刊以来出版された論文(「引用可能な項目(citable items)」として定義する。全文を伴わない抄録は除外)の数(c)最新の論文の年、を確認することを依頼した。ある雑誌は、実際、非常に大規模であった。そのような事例の大半では、任意に選択された号の標本を数え、号の総数にかけることで数値を推定した。そうであっても、この検証を行うには、ある事例では予想しなかったほど時間がかかった。9月末までで回答を打ち切ることにした。

総数で1,213の雑誌について回答を受け取った。これらのうち、20の雑誌(1.68%)は、結局調査中にオンラインでアクセスすることができなかった(いくつかの事例では、続いて行った確認からわかるように問題は一時的なものであった。しかしながら、いつの時点でも、似たような割合でアクセスできないと見なした)。さらに18の雑誌(1.52%)は、部分的に利用できず、10の雑誌(0.84%)は、実際のところ、もはやオープンアクセス雑誌ではなかった。その上、14の雑誌(1.18%)は実際には原著雑誌(original journals)ではなく、図書シリーズ、広告や製作情報へのリンクおよび他の雑誌から取られた論文を含んでいた。²⁾

残りの1,150の雑誌は³⁾、結局、平均すれば、ふつう想像されているよりは長い歴史を持つものであった(しかしながら、当該雑誌がいつからオープンアクセスになったかは常に分かるわけではなかった。ある雑誌は、遡及電子化したものを含み、ある事例では1911年まで及んでいた)。多くの場合、実際の雑誌は、数年間、従来の購読印刷体雑誌として発行され、その後、オープンアクセス雑誌に転換された。最初のOA論文の中央値は2000年(最頻値は2001年)であった。ときどき主張されるのと反対に、新たに開始される雑誌が図1に示すように、事実2001年から減っていたことに留意せよ。1997年の最初のピークは、多くの雑誌(OA雑誌と同様に購読雑誌)が初

めてオンラインになった日付と対応する¹。

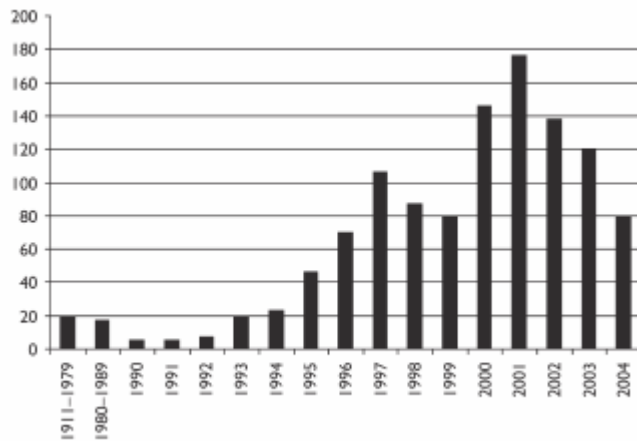


図1 オープンアクセス雑誌の成長

これは、独自に選択した248の雑誌の標本で、印刷版の開始年の中央値が1990年、オンライン版が2000年であり、最頻値が両方とも2002年であるとした、Kaufman-Wills²の知見と比較できる。新しい雑誌は5年から7年かけて評価が確立すること（購読モデルの下で、利益が上がるまで）が通常認められているので、DOAJの[収録]雑誌の半数は、既にこの点に達している。

出版された論文の数は、1から8,700までと多岐にわたる（後者は1911年まで遡及電子化された雑誌）（図2はその分布を示す）。

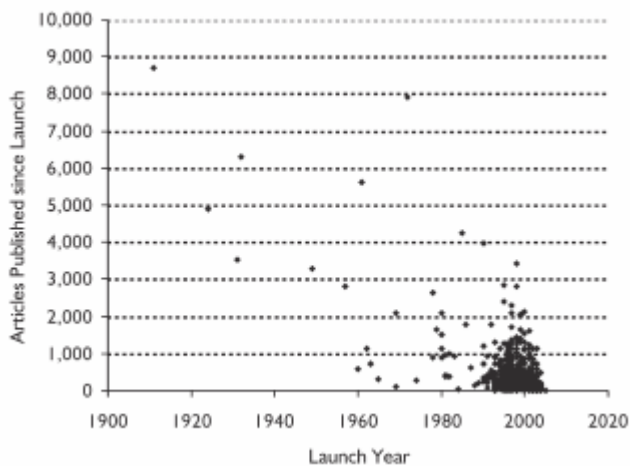


図2 創刊以来出版された論文総数

しかしながら、いくつかの相当な異常値があったにもかかわらず、中間値は、1雑誌当り278論文であり、それで中央値は108論文、最頻値はちょうど20論文であった。これは、年間の平均出版論文数が42論文（中央値は22論文、最頻値は10論文）であることを示す（図3参照）。またしても、これはKaufman-Willsの知見（2004年では中央値が41論文）と一致する。

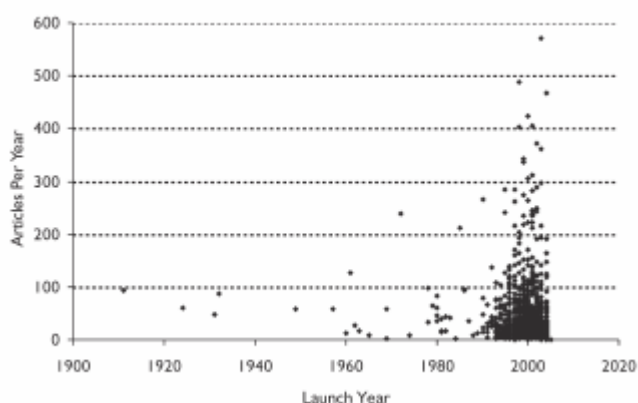


図3 1年当りの平均出版論文数

59の雑誌がそれぞれ合計で1,000論文を出版し、4の雑誌は5,000論文を超えていた。他の極端な値では、354の雑誌が50かそれ以下の論文を出版し、140の雑誌が20かそれ以下の論文を出版していた。図4が示すように、1年当りの平均論文数は、雑誌の年齢の関数(a function of journal age)ではないように思われる。ずっと最近になって創刊された雑誌は1年当りの平均論文数が少なくない(図1に示されるように図4における初期の年は1年当たり1の雑誌あるいはごくわずかな雑誌を示す)。

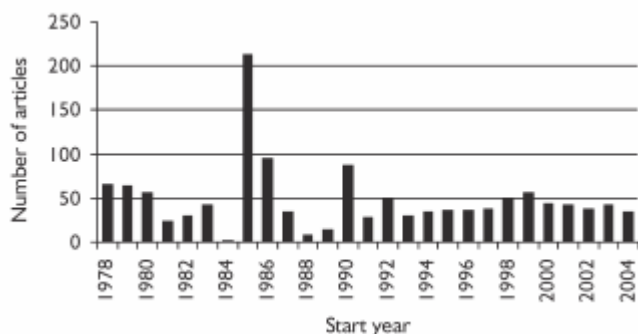


図4 相関年別の1年当たりの平均論文数

2004年かそれより早い年に創刊されたそれらの驚くべき数(26)の雑誌は、本当には始まっていない、5論文かそれ以下を出版している。新しい購読雑誌は、著者や図書館員がまともに取り上げるには少なくとも年に2回、号を満たすのに十分な数の論文(私の見積では最低4論文)を作成する必要がある。新しい購読雑誌の非常に少数(9タイトル)の標本しか入手できなかったが、それらは幾分新しく、創刊日付の中間値は2001年(中央値は2000年、最頻値は1998年)だが、幾分若いにも関わらず、それは、1年当たり平均32論文(中央値は33)を出版していた。

1,141の雑誌で⁴⁾、合計316,790のオープンアクセス論文が利用可能になると計算できる(ボランティアに全ての引用可能な項目の列挙を依頼した)。これを234のHighWireの雑誌によるほとんどが「遅延オープンアクセス」で利用可能な1,104,522論文と比較することは興味深い³⁾。

雑誌の大半は、明らかに依然として相対的には現在も出版されているが、545 の雑誌 (48.06%) は 2005 年に最新の論文を出版し、474 (42.24%) は 2004 年に、残りの 110 (9.74%) 2003 年かそれ以前から何も出版していなかった。事実ごくわずかな雑誌に、そのウェブサイトが閉鎖し、他の雑誌と合併し、あるいは商業出版社に移った形跡があり、しかしながらその残りにはそのような兆候はなかった。これは、それらの雑誌がたぶん消滅したことを示唆している。しかしながら、購読印刷体雑誌あるいは実際はオンライン雑誌とは違って、オープンアクセス雑誌にはこの事実を明らかにすべき理由はない。このように、DOAJ に収録されている雑誌の総数は、たぶん、現実にはもはや出版されていない雑誌を含んでいる。これは、調査の時点で⁵⁾リストの 1,325 の雑誌の 53 (4%) がオンラインでアクセスできないか、電子メールの連絡先がなかった (さらに、121 (9.13%) は電子メールで連絡がつかなかった) という、Kaufman-Wills の知見と整合性がある。

これらの知見を、Kaufman-Wills のより小規模で独自に選択した標本かもしれないが、最も詳細な知見と比較するのは興味深い。[以上から]三つの重要な結論を導いた。

1. オープンアクセス雑誌は特に新しくない。それらの最初に利用できる論文の中央値の日付は 2000 年であり、このように平均すると 6 年運用されている。以前は購読・ライセンスモデルであった多数の雑誌がオープンアクセスに転換した。このように、相対的に少数の論文が出版されると (本稿と Kaufman-Wills の両方が示すように) 共に利益を生じている比較的少数の雑誌 (Kaufman-Wills の調査の 34.8% , さらに 24.3% は損益分岐点上) は、純粋に雑誌の年齢の特性とは考えられない。

2. 創刊されるオープンアクセス雑誌の比率は、2001 年を頂点としてそれ以来減少している。

3. DOAJ の収録は、現行のオープンアクセス雑誌を 14% 以上 (3.13% は全部又は一部がアクセス不可能, 1.15% は原著雑誌ではない, 0.82% は完全にオープンアクセスではない, さらに 9.07% は 2003 年以降論文を出版していない) 過剰に見積っている⁶⁾。図 5 はこれを説明する。

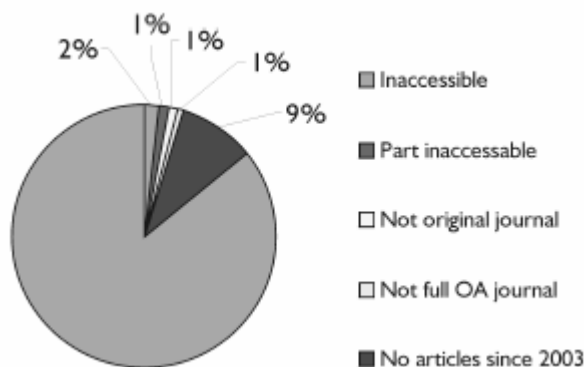


図 5 DOAJ の過剰積算

これは、雑誌を特徴付けているものは何かという興味深い質問を提起する。明らかに、出版物のパターンがオンラインの世界では違った形をとりうることである。号単位ではなく論文単位の出版が完全に可能である (だけれども DOAJ の雑誌のほと

んどが事実号に論文を掲載しているように思われる)。しかしながら、いくつかのDOAJの雑誌は、伝統的なモデルの下で購読者が受け入れるよりもかなり少ない論文を出版していた。他の雑誌は読者にその事実を公式に通知することなく、どうやら結局廃刊してしまったようだ。オープンアクセスモデルは、伝統的な市場では生存できそうもない雑誌の創造と持続を許容するよう見える。これの是非について悪いことなのか別にして意見は分かれるであろう。

謝辞

この分析に貢献した次のボランティア全員に感謝する。

Ivy Anderson, Jim Bird, Linda Blake, Helene Bosc, Raf Dekeyser, Marlene Delhaye, Emeline Haight, Sabina Iseli-Otto, Emma Jones, Alice Carolyn Keefer, Tamer Khafaga, Penny Lochner, William Loughner, Barry Mahon, Daniel Mohler, Alison Moller, Kent Mulliner, Elisheba Muturi, Deborah Rollins, Adrian Stanley, Alma Swan, Wilma van Wezenbeek.

また、統計についての助言を受けたDavid Tempestにも感謝する。

引用文献

1. John Cox Associates, *Scholarly Publishing Practice: The ALPSP Report on Academic Journal Publishers' Policies and Practices in Online Publishing* (ALPSP, 2003).
2. Kaufman-Wills, *The Facts about Open Access: A Study of the Financial and Non-financial Effects of Alternative Business Models for Scholarly Journals* (ALPSP, 2005). <http://www.alpsp.org/publications/FAOAcocompleteREV.pdf>
3. Statistics from <http://www.highwire.org> as at 2 Nov 2005.

訳注

- 1) DOAJのメタデータの"Added on data"によれば、2005年2月24日の現在の数となる。
- 2) ()内の割合は、1,213を母数として計算されていない。1,213を母数として計算し直した値は、20 (1.65%), 18 (1.52%), 10 (0.82%), 14 (1.15%)。
- 3) 1,150は1,151の誤りか。(1,213 - (20 + 18 + 10 + 14) = 1,151)
- 4) 1,141は1,151の誤りか。
- 5) DOAJのメタデータの"Added on data"によれば、2004年11月19日の現在の数となる。
- 6) この母数は1,213である。

著者紹介

Sally Morris (学術専門協会出版社協会 事務局長)

South House, The Street, Clapham, Worthing, West Sussex BN13 3UU, UK

Email: sally.morris@alpsp.org